

トヨタ 2000GT

# TOYOTA 2000GT

見る者を魅了する流麗なフォルム。  
日本車史上、もっとも美しいスタイル。

1



今なお語り継がれる伝説のグランドツーリングカーを再現！

1:10 SCALE

全長 417mm

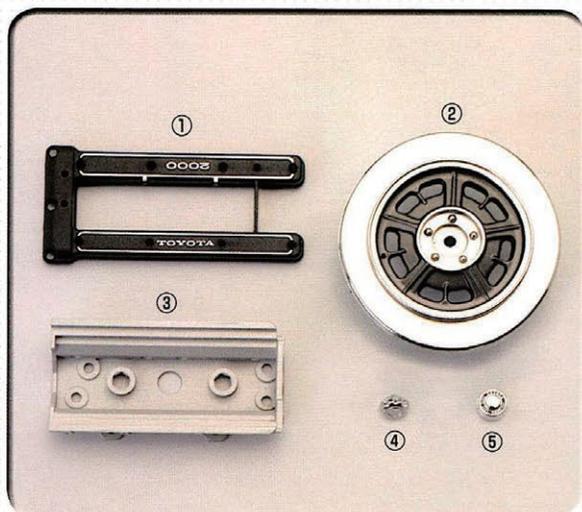
 DeAGOSTINI

1号

# ヘッドカバーに オイルキャップを取り付ける

今号では、「ヘッドカバー」に「オイルキャップ」を取り付ける。2000GTに搭載された「3M型直列6気筒DOHCエンジン」の上部を構成するこのパーツは、ボンネットを開けたときのアイデンティティーでもあるので、完成時の姿を想像しながら作業に取り組んでもらいたい。

## 今号のパーツ



- ①ヘッドカバー
- ②左フロントホイール
- ③シリンダーヘッド(下)
- ④オイルキャップ
- ⑤左フロント用ハブナット

### 使用する道具

特になし

### 用意するもの

- ・ビニール袋 (パーツが収納できる大きさのもの)
- ・油性ペン



①ヘッドカバーを写真のように持ち、④オイルキャップを写真で示した穴にセットする。



オイルキャップ裏側から突き出しているピンを、ヘッドカバーの穴へ真っすぐに差し込む。



オイルキャップの上面には「トヨタ」のロゴが刻印されている。好みの角度になるよう調整しよう。



オイルキャップを真っすぐに押し込んで、ヘッドカバーに固定する。



5  
今回の作業で使用しなかったパーツは、ビニール袋に入れて保管しよう。特にメッキ処理の施されたパーツは、外気に触れた状態で保管すると白っぽく曇ることがあるので注意が必要だ。



6  
パーツを入れたビニール袋には、油性ペンで号数を記入しておく。後の作業で使用する際に、パーツを間違えないようにするためだ。

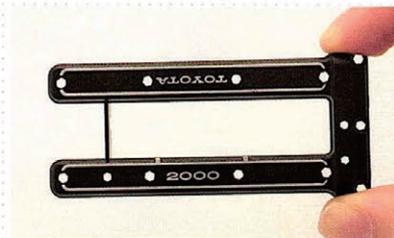
### 今号の完成



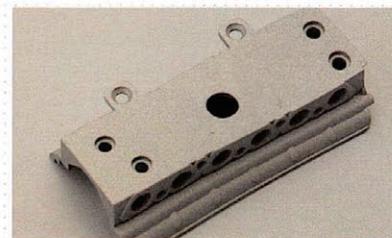
これで今回の作業は完了だ。作業自体は単純なものなので、特に手間取ることはないだろう。ただし、オイルキャップを取り付けるピンは細く、乱暴に扱くと破損する恐れがある。取り付けはくれぐれも慎重に扱おう。また、組み立てたパーツは次回の作業に備え、大切に保管しておこう。

### 【モデルを美しく組み立てるポイント】

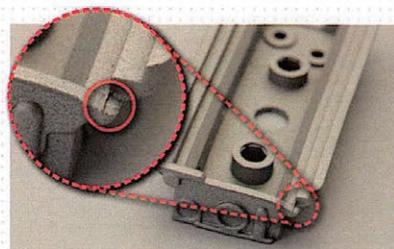
本シリーズは、亜鉛合金製のダイキャスト・パーツと、スチロール系およびABSなどの樹脂成型パーツによって構成されている。組み立ては、基本的に「はめ込み」と「ビスによる取り付け」で行われる。組み立て時のミスを防ぐためにも、穴の見分け方を覚えておくといいだろう。また、成型部品には「バリ」と呼ばれる“余分な部分”が付着している場合がある。これは部品を製造する上で避けられないものなので、カッターナイフやヤスリを使って削り取るようにしよう。



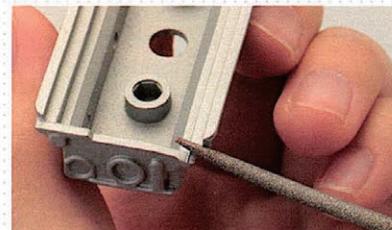
ヘッドカバーに設けられた穴をよく見ると、すべて「六角形」になっている。これは樹脂製パーツを差し込むための形状だ。



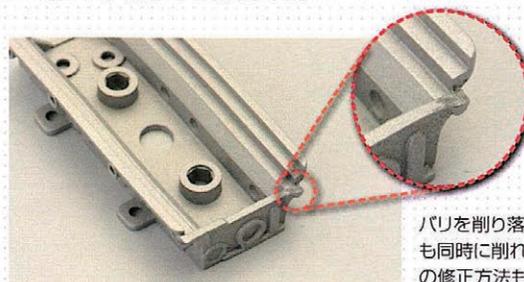
シリンダーヘッド下の裏面を見ると、“すり鉢状になった穴”と“段差のある穴”がある。すり鉢状の穴は「皿ビス」というビス専用の穴で、段差がある穴は“ほかのパーツをはめ込み、さらにビスで固定する”ことを意味している。



シリンダーヘッド下の縁部分を見ると、パーツの角に細い「バリ」が残っている。そのまま組み立て作業を行うと、バリがパーツに当たってしまい、はめ込みが不十分になる場合もある。



目の細かい、ホビー用のヤスリを使ってバリを削り落とす。樹脂パーツの場合はカッターナイフを使ってもいい。



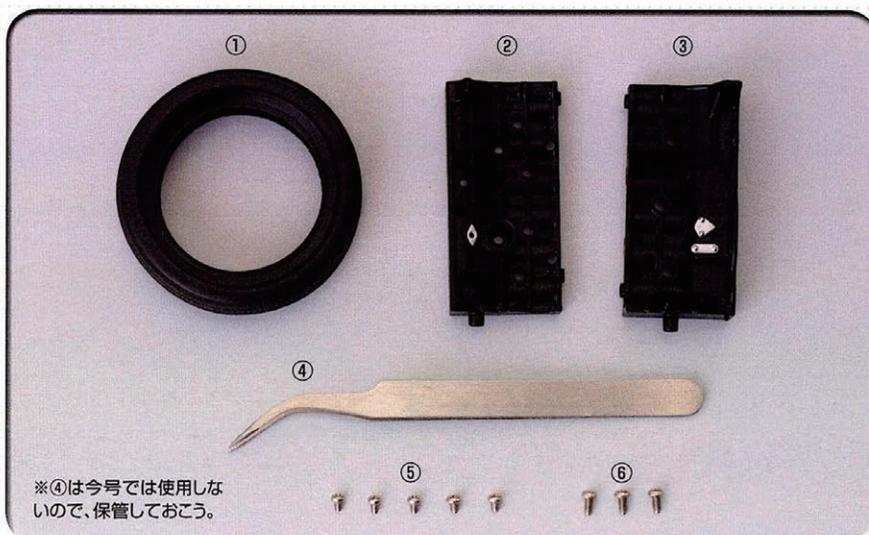
バリを削り落としたパーツ。表面の塗装も同時に削れてしまったが、そうした場合の修正方法も今後紹介していく予定だ。

2号

# 左フロントタイヤと シリンダーブロックを組み立てる

今号では、1号で提供した左フロントホイールにタイヤを取り付ける。また、エンジンの中核をなすシリンダーブロックも組み立てる。今号からは、工具を使った組み立て作業となるので、必要な用具類を事前に用意しておくといだろう。

## 今号のパーツ



※④は今号では使用しないので、保管しておこう。

- ①フロントタイヤ
- ②シリンダーブロック(右)
- ③シリンダーブロック(左)
- ④ピンセット
- ⑤ビス(Aタイプ)×5(※1本は予備)
- ⑥ビス(Cタイプ)×3(※1本は予備)

### 使用する道具

+(プラス)ドライバー(1番)

### 用意するもの

- ・左フロントホイール(1号で提供したもの)
- ・シリンダーヘッド(下)(1号で提供したもの)
- ・ビニール袋(パーツが入っていた袋で可)
- ・油性ペン

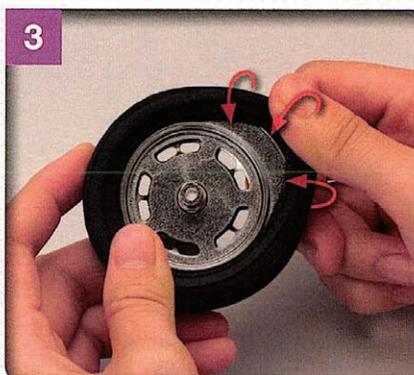


1号で提供した左フロントホイールを用意し、①フロントタイヤの内側に外縁の一部をもぐり込ませる。

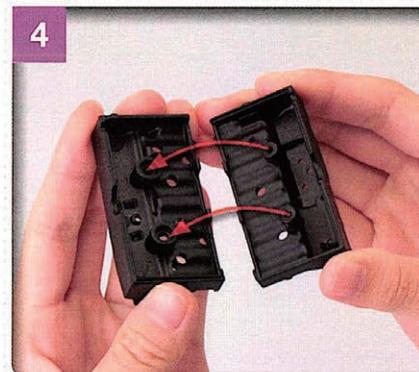
1号で提供した「左フロントホイール」の外縁部分に、汚れのような曇りが生じている場合があります。これは製造工程上、起こってしまうものです。タイヤに隠れる部分のため、洗浄などの必要はございません。



タイヤの側面(「サイドウォール」という)を引っ張りながらホイールにかぶせ、ホイールをタイヤの内側にはめ込む。



ホイールの表面をはめ込み終わったら裏返し、裏面を確認。②と同じ要領で、サイドウォール部分がホイールを包み込むようにする。



②シリンダーブロック(右)と③シリンダーブロック(左)を用意し、写真のように持ってみよう。それぞれパーツの内側に取り付け部が設けられているので、それを合わせる。



5  
左右シリンダーブロックをはめ合わせたら、しっかりと押し込んでおく。はめ合わせた上面(写真赤丸部分)が平らになるよう調整してから⑥~⑧の作業を行う。



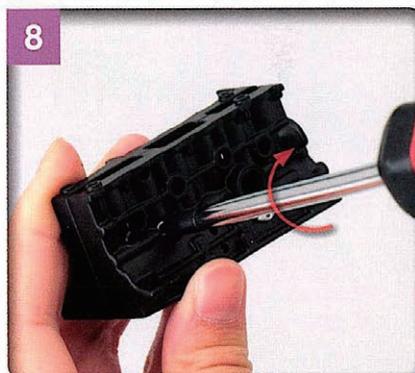
左右のシリンダーブロックをビス止めする前の状態。継ぎ目部分が平らになっているか確認しよう。



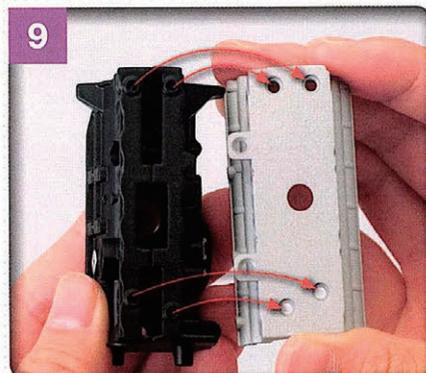
6  
シリンダーブロック(右)の側面中央にあるビス穴へ、⑥Cタイプのビスをセットする。まず、右側のビス穴から始めよう。



7  
1番の+ (プラス)ドライバーを用意し、⑥でセットしたビスをねじ込む。このビス穴には“タップが立てられていない(ネジ切り加工が施されていない)”ので、ゆっくりと慎重にビスをねじ込もう。



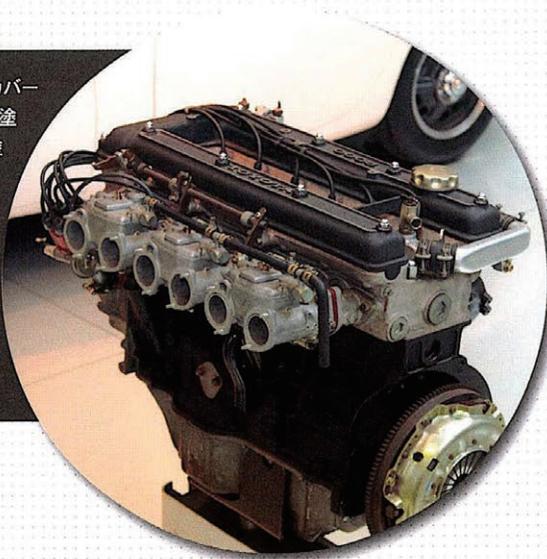
8  
左側のビス穴にもCタイプのビスをセットし、1番の+ (プラス)ドライバーでねじ込む。ある程度までねじ込むと、ドライバーを回せなくなるので、そこまでねじ込んだらOKだ。



9  
左右のシリンダーブロックをビスで固定したら、1号で提供したシリンダーヘッド(下)を用意し、写真のように持って取り付け位置の確認を行う。

## Parts in focus

実車のシリンダーブロックとヘッドカバーは、表面に細かいシワのある黒い塗装が施されている。これは「縮み塗装」と呼ばれる一種のコーティングで、パーツのさび止めはもちろん、稼働時の騒音低減、放熱促進といった効果を狙ったものだ。モデルでは実車の雰囲気感を忠実に再現するため、特殊な塗装工程によって縮み塗装特有の質感を再現している。

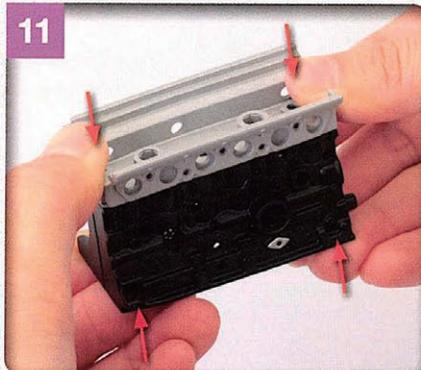


10



シリンダーブロック上部と、シリンダーヘッド(下)の取り付け位置を合わせ、そのまま押し込む。

11



シリンダーヘッド(下)をはめ込みにくい場合は写真のように持ち直し、力を入れて両側を真っすぐに押し込もう。

12



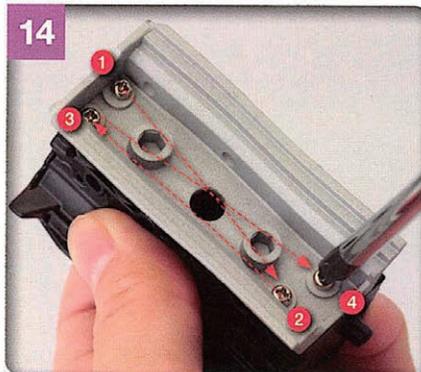
⑤Aタイプのビスを用意し、写真で示したシリンダーヘッド(下)のビス穴にセットする。Aタイプのビスは小さいので、1番の+(プラス)ドライバーの先端に取り付けた状態で作業するといいだろう。

13



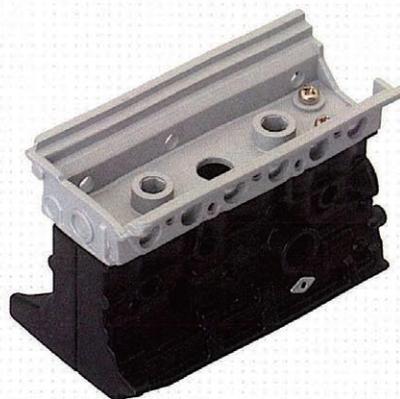
1番の+(プラス)ドライバーを使い、Aタイプのビスをねじ込む。このビスは非常に短いので、ねじ込みすぎるとビス穴を傷めてしまう。ドライバーを回す手応えが重く感じたら、ねじ込むのをやめよう。

14



写真に示した順番でAタイプのビスをねじ込んでいく。平面にビスをねじ込むときは、“対角線”の順番で行うと、パーツのゆがみを抑えられる。

### 今号の完成



これで今号の作業は完了だ。タイヤ&ホイールは、1号の時と同じようにビニール袋へ入れておこう。組み立てたシリンダーブロックは、次回の作業に備え、傷などを付けないように保管してもらいたい。なお、予備のビスは万一の場合に備え、小さなビニール袋に入れて保管しよう。その際、ビスの区別ができるよう、油性ペンで「A」「C」と記入しておくといいだろう。

3号

# シリンダーブロック(前)の取り付けと、 運転席を組み立てる

今号では、2号で組み立てたシリンダーブロックに「シリンダーブロック(前)」と「ディストリビューター・ドリブンギアスリーブ」を取り付ける。また、運転席シートの組み立てを行う。運転席シートの組み立ては、簡単な「はめ込み式」だが、パーツが外れにくいよう取り付け穴は「きつめ」になっているので慎重に作業を進めよう。

## 今号のパーツ



- ①バックレストレバー(右)
- ②シートレバー(右)
- ③運転席バックレスト(1)
- ④運転席シート(1)
- ⑤運転席バックレスト(2)
- ⑥運転席シート(2)
- ⑦シリンダーブロック(前)
- ⑧ディストリビューター・ドリブンギアスリーブ
- ⑨ビス(Eタイプ)×2(\*1本は予備)
- ⑩ビス(Dタイプ)×3(\*1本は予備)

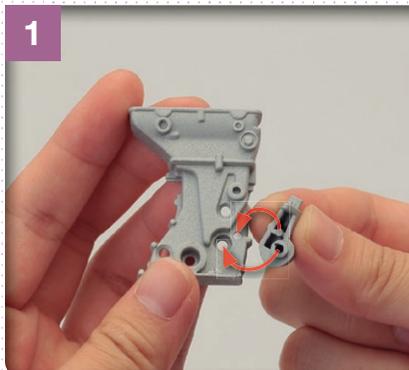
### 使用する道具

+(プラス)ドライバー(1番)

### 用意するもの

・シリンダーブロック(2号で組み立てたもの)

1



⑦シリンダーブロック(前)と⑧ディストリビューター・ドリブンギアスリーブを用意し、写真のように持つ。ディストリビューター・ドリブンギアスリーブの裏面にある取り付けピンと、シリンダーブロック(前)の穴位置を合わせてセットする。

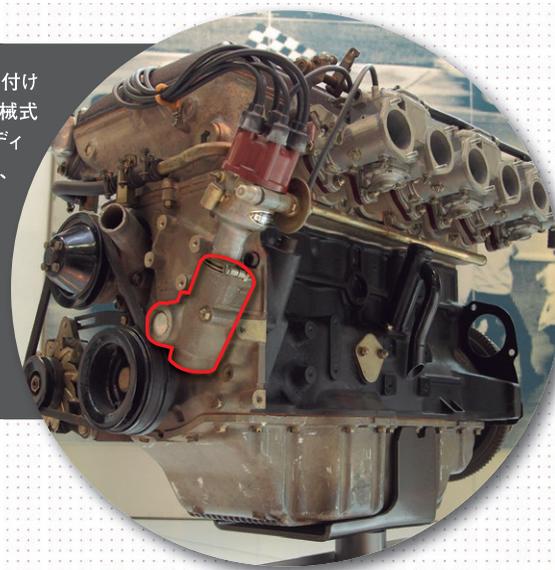
2

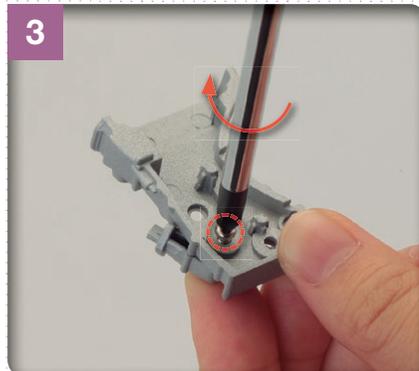


ディストリビューター・ドリブンギアスリーブをシリンダーブロック(前)にはめ込んだ状態。パーツを真すぐに押し込み、取り付けピンを奥まで差し込もう。

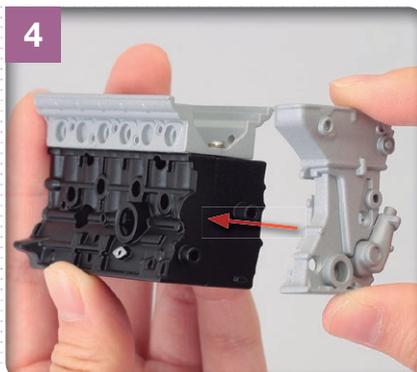
## Parts in focus

ディストリビューターとは、エンジンに取り付けられた点火プラグへ電力を供給する「機械式配電装置」のことだ。今号で提供する「ディストリビューター・ドリブンギアスリーブ」は、その駆動ギア&シャフトを包む“外装カバー”にあたるパーツで、実車ではベベルギアによって稼働するシャフトが組み込まれる。これが上部のディストリビューターを動かし、オルタネーターで生み出した電力を増幅して各点火プラグに供給する仕組みだ。

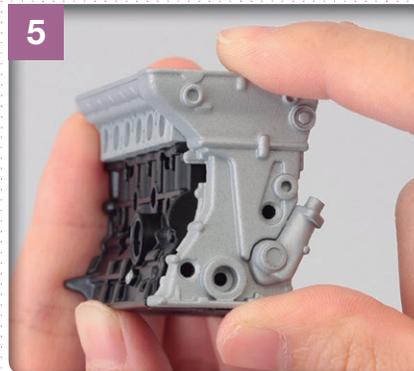




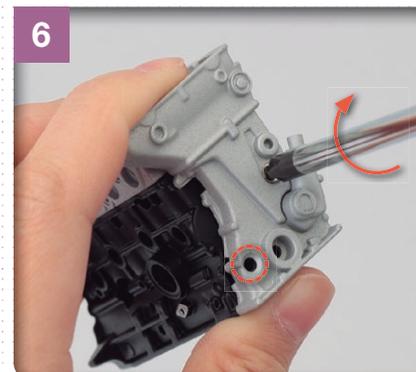
3 シリンダーブロック(前)を裏返し、写真に示した穴位置に⑨Eタイプのビスをセットする。1番の+(プラス)ドライバーを使い、Eタイプのビスをねじ込む。



4 2号で組み立てたシリンダーブロックを用意し、写真の位置に3で組み立てたシリンダーブロック(前)をセットする。



5 シリンダーブロック(前)を真っすぐに押し込んで、シリンダーブロックへはめ込む。



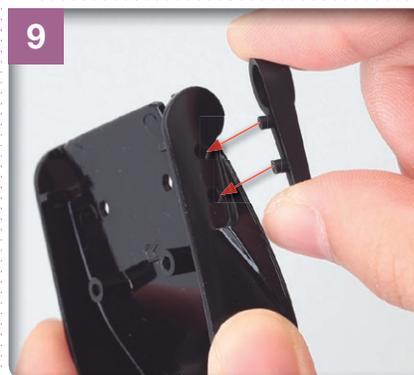
6 1番の+(プラス)ドライバーを使い、⑩Dタイプのビスをねじ込む。もう片方のビス穴にも、同じ要領でDタイプのビスをねじ込もう。



7 ⑤運転席バックレスト(2)を用意し、右側面の穴へ①バックレストレバー(右)を写真の向きでセットする。



8 バックレストレバーと運転席バックレストの縁を挟むようにして持ち、そのまま真っすぐに押し込む。



9 ⑥運転席シート(2)を用意し、その右側面の穴へ②シートレバー(右)を写真の向きでセットし、真っすぐに押し込む。



10 8で組み立てた運転席バックレストの下端両側にある突起に、9で組み立てた運転席シートの後端両側のヒンジ部分をかぶせるようにしてはめ込む。

11



バックレストを起し、着座状態の角度にしておく。

12



④運転席シート(1)を用意し、裏面の取り付けピンを運転席シート(2)の穴に合わせてセットする。

13



運転席シート(1)の取り付けは、まずシート奥にある2本のピンを穴に差し入れ、続いて手前2本のピンを差し込む。パーツは軟質な樹脂製なので、多少ひねっても問題はない。

14



裏面のピンを4本とも差し込んだら、運転席シート(1)を真っすぐに押し込んでおこう。

15



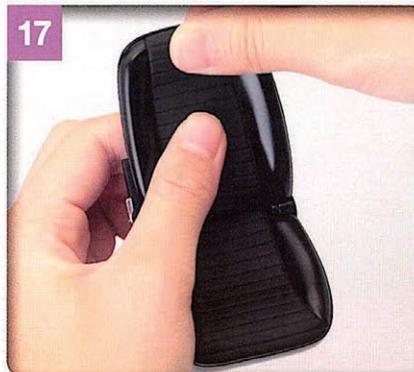
③運転席バックレスト(1)を用意し、裏面に設けられた取り付け部分の配置を確認し、次の手順で位置を合わせる。①中央部上下のポスト(円筒形の支柱)の穴と、バックレスト(2)にあるピン→②バックレスト(2)に設けられた2本のリブ(板状の成型部分)と、バックレスト(1)裏面の溝→③左右上下にある各2本のピンとポストの穴の位置に合わせてセットする。

16



運転席バックレスト(1)を取り付けるときは、パーツの下側からはめ込むようにすると良い。

17



パーツをはめ込んだら、しっかりと押し込んでおこう。

今号の完成



これで今号の作業は完了だ。3M型エンジンの心臓部が、次第にその勇姿を現し始めてきた。運転席シートも軟質樹脂製ながら、実車の雰囲気をしっかり再現している。さらなるディテールアップも可能だが、それについては別の機会に紹介する予定だ。組み立てたパーツは次回の作業に備え、大切に保管しておこう。また、余った予備のピンスも、万が一に備えて保管するようにしよう。